



平和資料館 草の家 だより

No. 97

2007年12月25日発行



草と草の根の連帯をあらわす
草の家のシンボルマーク

〒780-0861 高知市升形 9-11 Tel 088-875-1275 Fax 088-821-0586
E-mail: GRH@ma1.seikyō.ne.jp <http://ha1.seikyō.ne.jp/home/Shigeo.Nishimori>

平和の風になろう

2007年12月吉日 館長 岡村正弘

「美しい国」「戦後レジームからの脱却」をスローガンに憲法改悪を任期中に行うといていた安倍・自公政権は、国民の支持を失いあっけなく崩壊し、遠い昔のことであったような感じさえします。

代わって登場した福田政権は、福田首相自身が「靖国参拝はしない」と明言するなど、政策の部分的な手直しを行っています。しかし、基本的に自民党政治が変わったわけではありません。

新テロ特措法案は国会を再々延長させて何が何でも通し、派兵を再開しようとしている。大企業に空前の利益をもたらし、国民のなかに貧困と格差を広げている「構造改革」路線は、変わっていない。大企業減税、庶民負担増路線は続いている。防衛事務次官という自衛官のトップの汚職事件、日米の軍需大企業、政治家を巻き込んでの軍事利権疑惑などに首相として真相を明らかにする姿勢がない。

「大連立」の動きは何であったか。

福田首相と民主党・小沢代表との党首会談が密室談合の形で行われ、

「大連立」の動きが起きました。民主党側の事情で中断したが両党党首がいったんは「大連立」で合意した事実は消えない。「大連立」は、自民党、民主党が、どちらも単独では、国民の怒りが恐くてなかなか手をつけられないもの、自衛隊海外派兵恒久法、消費税増税、憲法改定などを「翼賛体制」で進める、アメリカ、財界の要求にこたえるものである。国民の声で政治が動く新しい情勢が生まれています。参議院選挙の結果、参院で野党が多数になりました。11月1日、インド洋から海上自衛隊が撤収しました。国民の声で軍隊を撤収させたのは、日本の戦前・戦後の歴史の中で初めての出来事であります。沖縄戦教科書問題、「従軍慰安婦」問題など歴史をゆがめる逆流を許してはなりません。

平和資料館・草の家は自衛隊が外国に出兵することに一貫して反対してきました。イラクから、アフガンからの撤兵を求めて中央公園北口で今もピースアクションを続けています。中国平和の旅、韓国平和の旅、日韓青年ワークショップなど民間の平和友好運動を行ってきました。「すべての武器を楽器にしよう」と平和を訴えました。テロ根絶をいうなら、日本がなすべきことは、対テロ戦争支援を再開することではなく平和の外交努力をすることです。今こそ日本国憲法を生かすときです。

戦争する国づくりでなく、戦争しない独立・平和・中立の日本をめざし平和の風を吹かそう。一人ひとりが平和の風になろう。



輝かしい未来に進む台湾の民主化運動

事務局次長 太田 紘志

台湾では20世紀最後の10年間に、蒋介石一族の権威主義体制に終止符を打ち、急ピッチで民主化がすすめられてきた。国会議員が全面的に改選され、1996年には台湾史上初の民選総統が誕生した。その結果、自由と人権が多方面で定着し保障されるようになった。2000年には、初めて「政権交代」が実現し、民主化の成果は国際社会から高い評価を受けてきている。

【二・二八事件—台湾の政治と社会に重大な影響・白色テロ—】

台湾の人権に多大な障害を与えたのが「二・二八事件の白色テロ」です。

二・二八事件は1947年、当時の台湾の国民党政府が、当時の「台湾人同胞」を強引に拉致し、強奪し、強姦し、暗殺し、さらに「無差別大虐殺」を引き起こした大事件です。この事件は台湾人を恐怖のどん底に落とししめただけでなく、台湾土着の俊才やエリート、進歩的民主主義者など多数の犠牲者をだしました。この事件を含め台湾では、蒋介石政権の台湾統治から多くの白色テロ事件があり、3万件・12万人にのぼる犠牲・失踪者がいると言われています。今現在、台湾の人権・民主主義を考える人々によって、多数の白色テロ事件の掘り起こしと、人権の名誉回復・抵抗者等の掘り起こしが急ピッチで進んでいます。

【草の家に台湾から訪問者】

9月25日、陳文成博士記念基金会の関係者7人が草の家に訪問してくださいました。一行は、「人権への道 レポート・戦後台湾の人権」の日本語版の本の完成を期して、日本の各地の平和博物館や平和団体を訪ね交流する目的を持っておいでくださいました。草の家からは、岡村館長・日渡事務局長・太田理事他が参加。日帰りのあわただしい交流でしたが、私たちに「台湾に行きたい」との強烈な印象を残してくださいました。夕方の懇親会は、いつものように多数の参加者により「ひろめ市場」で、おいしいお酒と肴と笑顔と言葉で大交流会となりました。(これは、9月25日・草の家に「陳文成博士記念基金開会」から7人の訪問者が来た記録です。詳しくは草の家に寄贈された「人権への道、レポート・戦後台湾の人権」の本をご覧ください。)

♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪ 大盛況！バイオミュージックコンサート ♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪

11月3日(土)に行なった秋の恒例企画、バイオミュージックコンサートは今年で9回目。念願の竹林寺でコンサートをするために、檀家であり草の家理事の山本万里子さんと西森遼子さんが朝早くからお願いしに行ってくださいました。当日は気温が低くお客さんが来るか心配でしたが、開場前から並んでいるお客さんの多いこと。灯籠のならば美しい庭園にうっとりしながら、岸本さんの尺八とジャズグループのDUST(ダスト:伊太地山伝兵衛、佐山雅弘、石井康二)と蓮見昭夫さんもそろっての演奏にまたうっとり。お客さんは興奮で寒さも気にならない様子。岸本さんも「竹林寺サイコー！！来年もぜひ！！」とのこと。参加者は「昨日のライブハウスの演奏よりこっちの方が何倍もよかったよ！！」「こんなすてきなコンサートが聴けてよかったです。草の家ってすごいですね。色々やってて。」と大好評。沢山のスタッフによって成り立ったコンサート。200名を越える来場者に喜ばれながら癒しの時間となりました。関係者のみなさま本当にお疲れ様でした。 ♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪